



やるきほんききさき
木佐木
 神奈川県議会議員
 日本共産党

2026.2.25
木佐木ただまさ news
 発行：党横浜北東地区委員会
 横浜市鶴見区潮田 3-147-6
 TEL：045-511-1021
 Profile
 ▶1984年(41歳)山口県出身
 ▶鶴見区馬場在住
 ▶神奈川大学法学部卒
 ▶よこはま健康友の会会長
 ▶横浜東民商顧問

鶴見の安全を守る！京浜臨海部の

「石油コンビナート防災対策」が前進

鶴見の安全を守る！石油コンビナート防災対策が10年ぶりに始動

京浜臨海地区の安全を「企業任せ」にせず、行政が最新データで厳格に再検証。



10年間の「防災空白期間」を解消
 平成25～26年度以来となる本格的な防災アセスメント(災害予測調査)に向けた一歩です。



令和8年度予算1,300万円で基礎調査
 特別防災区域(京浜・根岸臨海地区)の危険物タンク等の最新データを収集・整理します。



過去のデータと比較・地図化
 前回調査結果と最新データを比較し、リスクを地図上に可視化して評価します。



令和9年度以降
 令和9年度以降の本格アセスメントへ
 今回の調査を判断材料とし、設備の補強や企業への
 指導を含む抜本的な安全対策に繋がります。

なぜ今、コンビナートの 防災点検が必要なのか？

鶴見区のみなさんにとって、身近にある京浜臨海部の工業地帯は地域経済を支える大切な存在です。一方で、大規模な地震や津波が起きたとき、石油コンビナートで火災や有害物質の流出といった「複合災害」が起きないか、不安を感じている方も多いのではないのでしょうか。

神奈川県による前回の本格的な防災アセスメント(災害予測の調査)が行われたのは平成25～26年度で、すでに10年以上が経ちました。近年は想定を超える自然災害が頻発していますし、施設の老朽化や環境の変化も踏まえた最新の安全確認が急務になっています。

令和8年度県の新たな取り組み

こうした状況の中、令和8年度の神奈川県当初予算案に、新たに「石油コンビナート災害対策調査事業」(予算額1,300万円)が盛り込まれました。この事業

では、特別防災区域である京浜臨海地区などの危険物タンクについて、最新の基礎データを集めて整理します。

前回の調査結果と比較した上でデータを地図上にわかりやすく表示し、令和9年度以降の本格的な防災アセスメント調査を行うかどうかの判断に繋げていく計画です。「私たちの街は本当に安全なの？」という地域のみなさんの切実な声に応えるための、大切な第一歩が踏み出されました。

区民の命と暮らしを

最優先する防災対策へ

今回の基礎調査の開始は大きく評価できる前進ですが、もちろん調査をして終わりではありません。日本共産党は、何よりも「県民の命と暮らしを守る」ことを県政の最優先課題に位置付けています。

基礎データを集めるだけでなく、早急に本格的な防災アセスメントを実施し、その結果に基づいた設備の補強や、企業の防災体制の見直しなど、本当に効果のある安全対策へと繋げていくことが不可欠です。私たち日本共産党は、鶴見区のみなさんがいつまでも安心して暮らし続けられるよう、安全対策を企業任せにせず、行政がしっかりと責任を果たすよう、引き続き県議会で強く求めていきます。



YOUTUBEでも紹介しています⇒

